



テレビ番組に祝島が相次いで登場！

6月から7月にかけて、テレビ番組に祝島が相次いで登場！ 今、祝島がちょっとしたブームなのではないでしょうか？

6月11日（土）放送（関西・中四国・九州地区）

NHK「西日本の旅」～小さな島の宝物～

7月10日（日）放送（全国）

よみうりテレビ「遠くへ行きたい」

～益子直美「瀬戸内 白壁・石堀・海の内」～

7月29日（金）放送予定（全国）

日本テレビ「午後は おもいっきりテレビ」



「西日本の旅」の取材風景
みさきちゃんがピワもぎしているところ



「遠くへ行きたい」
レポーターの益子直美さん

もうすぐ「第4回祝島不老長寿マラソン」です

8月7日（日）に「祝島不老長寿マラソン」を2年ぶりに開催します。今回も募集人員を上回る135名のランナーがエントリーしてくれました。祝島出身者やその子供たちも何人がエントリーしています。参加された皆さんが祝島の自然や風景を満喫して、楽しく走れるように準備を進めていきたいと思えます。

尚、大会当日や前日には多くのボランティアを必要としていますので、ボランティアが出来るような方は、國弘か木村まで連絡をお願いします。（ボランティアの方にもオリジナルTシャツ差し上げますよ！）

第4回祝島不老長寿マラソン

〔開催日〕8月7日（日）

〔スタート〕13kmの部はAM8:00

2kmの部はAM8:10



今回も祝島出身の村岡正司さんが、カッコイイTシャツをデザインしてくれました。

目次

テレビに登場！/マラソン	1
祝島の歴史を探る	2
魚・さかな・肴	4
花*花クイズ	4
会員リレーコラム	5
祝島懐かしの料理	6
祝島大好き人間	7
祝島中・野球部再創設史	8
Let's learn English in Iwajima!	9
活動紹介/お知らせ&募集	10

つがめがり
けあがり
フューキ飛び



祝島の昔の遊び「鉄棒」
絵・しげむらみちこ

終戦から60年を迎え、テレビや新聞でも様々な視点から「戦争」が取り上げられていますが、ここでは島のホームページで話題になった光工廠(こうしょう)について書きたいと思います。

70歳を過ぎて國弘君の気の長～い指導のもと、パソコンを習い始めた父に、祝島の歴史について記録してほしいと頼みました。それからしばらくして「痛恨の八月十四日」というすごいタイトルの文章が届きました。父が学徒動員で出動していた光工廠の思い出を書いたもので、その冒頭には、「この痛恨の出来事を記憶の外に葬りたい。しかしこの日におきた事実を真正面から見据え、戦争を知らない若い世代への平和のメッセージとして語り伝えることも戦争を体験した者の義務であろう。」とありました。

光工廠は日本の海軍工廠の重要な基地のひとつで、「出口のない海」に書かれたように人間魚雷「回天」の基地でもありました。そして終戦前日の8月14日に致命的な空襲を受けました。「工廠会」が発行している「光海軍工廠爆撃の実態」によると、「米国のトルーマン大統領はそれまで爆撃を控えていた重要な精密爆

撃地点と都市をソ連の実戦参入により、最大規模の爆撃を指令し8月14日の戦略爆撃の決行となった。日本の海軍工廠として重要な工廠のひとつであり兵器廠の十指にランクされる光工廠は事前の偵察研究も行き届いていた。即戦力より潜在的能力の膨大な光工廠を爆撃目標に選んだことは講和実現の前に新鋭の大きな潜在能力の残存を許さぬ意志の現われである。」と書かれています。和平交渉の日本側の最終回答が1日早まっていたら、また天候が悪ければ14日の爆撃はなかったと考えられ、光工廠の不運はまさに「痛恨の極み」と言う他ありません。

終戦日と同じ8月15日が誕生日である父から、毎年同じようにこの不運の空襲の話をお聞きされてきました。14日の空襲は激しく、自分の目の前で多くの友人が亡くなり、生死は紙一重の世界だったそうです。自分が生きているのは奇跡のようなものだという話を繰り返しかえし聞かされました。

山口県史「近代化の光と影(上関町)」には「昭和19年8月に学徒勤労働員の範囲が国民学校高等科にまで拡大され、9月28日には室津、上関、祝島の各国民学校の高等科男子生徒に通年動員が発令されて光海軍工廠への出動が命じられた。身体検査、保護者会、壮行式を挙行して、10月20日に海路、出動した。しかし、光海軍工廠は終戦の前日、20年8月14日午後1時20分から1時間にわたって米軍機延べ150機による波状攻撃を受け、破壊的被害を出して、従業員や動員学徒788名が死亡した。その中に上関と祝島の国民学校生徒16名がいた。戦争の犠牲者は決して、戦場に赴い



すいさんか広場に建っている三本の碑の一つが、光工廠で犠牲となった学徒達の慰霊碑である



慰霊碑には「光工廠戦死者学徒十八名 他工員二名之碑」と刻まれている。

たものたちだけではないのである。祝島国民学校の死者は唐木定利・村田克己・三井利彦・角田威・松村陽太郎・松本工・竹林富雄・浜本一男。のち、上関と祝島に戦没学徒の慰霊碑が建立され、幼くして国家の誤った政策の犠牲となったもの達の鎮魂がなされた。"と、当時の様子が記載されています。

ここに書かれているように、戦争で傷ついた人は戦地に赴いた人だけではありません。父の"記憶の外に葬りたい"という言葉には多くの学友が亡くなって自分(達)だけが生き残ったという罪悪感のようなものが感じられます。父だけでなく戦争で生き残った多くの人とその罪悪感を抱えて戦後を生きてこられたように思います。このように戦争は多くの人に深い傷を残しました。そしてかけがえのない未来や希望をも奪ってしまいました。さらに戦争で日本は人類ではじめて原子爆弾を投下されました。その原子力でまた祝島が苦悩しています。一步間違えば広島・長崎の恐怖を私達の世代が背負うことになります。それでも私達はこの不幸を黙認するしかないのでしょうか。



祝島から光海軍工廠に出動していた学徒たちの集合写真

(取材協力：蛭子公雄)

VICC-60368

願い ～愛と平和の歌 新垣 勉(テノール)

1. 愛しの君よ (アルマ・デル・コアレ) Alma del core	3:09
2. 愛の喜び Piacere d'amor	4:04
3. ニーナ Nino	3:57
4. 朝の歌 (マッティナータ) Mattinata	1:56
5. アニェス・デイー「アルルの女」より Agnus dei	3:39
6. アヴェ・マリア「カヴァレリア・ルスティカーナ」より Ave Maria	3:01
7. 青い空は	4:01
8. 四季の歌	3:09
9. 賢をください	4:06
10. イムジン河	4:44
11. あざみの歌	3:45
12. 夢路より Beautiful dreamer	3:47
13. TSUNAMI	5:47
14. 長崎の鐘	5:08
15. 鳥唄	5:49
16. ダニー・ボーイ Danny boy	5:11
17. 明日に架ける橋 Bridge Over Troubled Water	5:21

新垣 勉(テノール) / 監修 公二 指揮 管弦楽団
歌詞: 1~4, 6: イタリア語 5: ラテン語 A~11, 13~15: 日本語 12: 英語&日本語 16, 17: 英語
録音: 2003年5月~6月 秋川クラウホール, 秋川市民文化センター(アークホール)

写真: CD 新垣勉 平和へのメッセージ「願い」
なかでも「長崎の鐘」は心を打たれます。"こよなく晴れた青空を悲しと思わせつなさよ" 祝島の青い空を連想します。



写真: 横山秀夫著「出口のない海」

"美しい海。母なる海。だがそれは、二度と陸地を踏むことを許さない、出口のない海でもあった。"

ヒラメを祝島ではオオクチと言います。

左ヒラメに右カレイと言うように、腹を下側に置いて、左を向けばヒラメ、右を向けばカレイです。オオクチは左を向きます。六月から七月にかけて、建て網に掛かるようです。先日も釣りから帰って、波止の中で貰いました。

オオクチは、刺身、煮付け、唐揚げなど、なんにしても旨い魚です。旬は冬だと思います。

私の子供時代より昔は、このオオクチを釣りに灘の方に出ていたそうです。祝島の南にコージロと言う無人島がありますが、そこを過ぎてずっと南に走ったところで釣っていたそうです。餌は生きているコウイカでのノマセ釣りです。私の父が、父の叔父と2人で、フカに船を噛み付かれて、沈みかけたと言うのも、このオオクチを釣りに出たときだったようです。釣れたオオクチを食べようとして底から追っかけてきたのではなかったかと言っていました。

祝島の波止からも時々釣れるようです。なかなかタマですくいくいようで、中の波止ですくおうとして奮闘しているのを見かけたら、まずオオクチでしょう。東の波止でも稀にルアーで釣れることもあります。

見かけによらず、獰猛な魚で、鋭い歯を大きな口に収めています。



オオクチは左向き

<連載> 花*花クイズ(13)

橋部 好明



前回の花*花クイズの答えは、ヤエヤマブキでした。

行者堂の近くで咲いていました。調べてみると八重は園芸品種だという。雄しべは弁化し、雌しべは退化している

ので実は付かない。すると、どなたか植えたのだろうか？

江戸城を築いた太田道灌の有名な山吹の話に出てくる「七重八重花は咲けども山吹のみのひとつだになきぞ悲しき」の歌の山吹はヤエヤマブキだったと納得！？



白崎地区のヤマブキ

ヤマブキの鮮やかな黄色の花は、黄金色で山吹色として親しまれている。

祝島では、ヤマブキは白崎地区と北側の通矢海岸の崖で見られる。通矢海岸では鮮黄色が遠望出来るが、近寄れないので八重かどうかは確認できない。

さて、今回の花は？

慶長年間、観賞用として輸入されました。今、日本の食生活に、なくてはならない貴重な食物となっています。



これは何の花？

会員リレーコラム(14) ~西寺 達美さん~

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第14回目は、西寺達美さんの登場です。



会員の皆さんこんにちは、私は國弘（ヒデト）さんより1学年上の西寺です。祝島で生まれ、祝島小、中とすごし、現在は京都の生活協同組合に勤務しています。何とか祝島のためになりたいと、祝島ネット21に入れてもらいましたが、何のお手伝いもできず反省しています。

現在、私には2人の娘がいて、2人とも祝島が大好きです。夏に帰った時に祝島小学校に上って、娘に小学校の時の話をしたことがありました。しかし、信じてもらえず苦笑した思い出があります。たとえば、私：「この池は白くまの池ゆうてたんや。」

娘：「ふーん。」

私：「この池の鯉が苦しうやゆうて、全部水を汲み出した同級生がいるんやで。」

娘：「うそー。そんな事してたら皆に注意されるんか。」

という感じで、当時の島の状況は、1学年8クラスある都会の子には伝わりにくいものがあります。

でも当時は、段々畑を1段残らず飛び降りれるか競争したり、柔道一直線の主人公が生の大根を美味しくにかじるのを見て、皆で畑の大根を抜いてかじったり、学校の廊下に油を撒いてスケートしたり、今、そんな子がいたら通報されかねませんよね。でも当時の島では、次の日くらいに学校に伝わり、担任の先生に叱られて許してもらってました。そう考えると、自分達が当時の島の人達に、とても大切にされていた事を感じます。そんな風に自分を育ててくれた祝島に感謝し、自分のルーツが祝島にあることを誇りに思いながら、今後も頑張りたいと考えているおやじです。

海岸清掃&学校の草取り作業

7月16日に祝島自治会の海岸清掃がありました。この日はついでに学校の校庭の草取りも行われました。島民がみんなで力を合わせて作業を行い、海岸も校庭もとてもきれいになりました。

海岸清掃は夏休みに入る前に、子供たちが安全に海水浴が出来るようにと、昔から行われています。昔は“チンカラ拾い”と言っていたようです。“チン”はガラスやビンの破片などのことで、“カラ”は缶カラのことではないかと思うのですがどうでしょうか？この言葉自体に懐かしい響きがあります。要するに、子供たちが海水浴をするときに足などを切らないようにという目的で行われてきた夏の行事です。

10月には“道こしらえ”という行事があります。これは山の農道の草刈りです。このように、祝島では

島民が力を合わせて住みやすい環境を整備していく伝統があります。このような伝統と奉仕の心をいつまでも大切にしたいものです。



校庭の草取り作業

<連載> 『聞いてみん菜・食べてみん菜』

祝島懐かしの料理(10) ~石豆腐と瀬戸貝~

祝島・食べてみ隊

両親が祝島出身の我が家では、石豆腐や瀬戸貝をゲットするとそれ自体がイベントになるという食材です。

この5月下旬に祝島で石豆腐をゲットしたので(於えべす商店) せっかくだから瀬戸貝をなんとか手に入れようと柳井駅の周辺をうろろうして—— 見つけました!! 大きな瀬戸貝を! ただしむき身でしたが・・・。柳井駅を背にして左側に数分歩いたところの魚屋さんです。電車を遅らせても、という根性というか食い地というか・・・ 翌日、早速瀬戸貝と石豆腐の煮物を作ってみました。

<材料>

石豆腐、瀬戸貝、しょうゆ、酒、みりん

<作り方>

だし汁+酒1 : みりん1 : しょうゆ1を鍋に入れて煮立たせます。お好みで砂糖を加えてください。



瀬戸貝を食べやすい大きさに切り、鍋に入れます。



ひと煮立ちさせたら瀬戸貝を一旦鍋から他の器に移します。



適当に切った石豆腐を鍋に入れ、味がしみ込むようにじっくりと煮込みます。

再び瀬戸貝を鍋に戻してひと煮立ちしたところで、火からおろします。



器に盛りつけます。つわぶきなどを煮合わせますと旬の味が味わえます。

むき身でも十分おいしかったのですが、あの黒い貝殻がついてないとちょっとさびしい・・・

祝島の磯を思い浮かべながら、また祝島の話に花を咲かせながら過ごした、5月の、とある日曜日の我が家のイベントでした。



石豆腐と瀬戸貝の煮物

おまけ：石豆腐を味噌漬にしてみました。チーズのような舌触りでなかなか乙な味です。



石豆腐の味噌漬

祝島みそと酒、みりん、砂糖を合わせ、石豆腐を適当な大きさに切って漬けこみます。2週間~1ヶ月ぐらいで食べてみました。

ぐう (^_^) v



祝島大好き人間 (5)

祝島ファン(シーカヤッカー) 原 康司さん

シリーズ第5弾は、周南市に在住の原 康司さんの登場です！ 原さんはシーカヤックでアラスカなどにも遠征されたこともある冒険家です。現在、周南市でシーカヤック&アドベンチャーショップ「ダイドック」を運営されており、祝島にはカヤックで何度も来られています。また、2003年、2004年の秋に結成された「瀬戸内横断カヤック隊」の主要メンバーとして、祝島から小豆島まで約300kmをシーカヤックで漕ぎ渡ったすごい人なのです。



祝島・東波止の中で(1番左が原さん)

祝島に初めて訪れたのは、今からもう4年程前になる。翌年に控えていたアラスカ遠征にそなえ大津島～淡路島までのシーカヤック横断ツーリングの途中、友人に是非立ち寄ったらいいと勧められ、寄港したのだ。

漁港に上陸すると、漁師のおじさん達がカヤックに興味津々で親しげに話しかけてくれた。港に隣接する旅館に宿をとり、町を散策した。細く迷路のように続く練堀の道、背負子のかついで急な坂道を登るおばあさん、島人に話しかけると皆、笑いながら答えてくれる。なにか懐かしい風景と匂いが僕の周りを取り巻き、ああこれが瀬戸内の原風景なのだと強く想ったものだ。出発の朝、民宿のおばちゃんが握り飯をこれでもかと折り詰めに詰め込んでくれた。朝靄の中、海に滑り出すと、どこからかおじさんが「また来いよ～！」と叫んでくれた。

1ヶ月後、無事に淡路島まで到着することができた。途中、瀬戸内の多くの島に立ち寄ったが、祝島ほどやさしい島に出会うことはなかった。「祝島の人々は山口の、いや瀬戸内の誇りである。」なにかのラジオ番組に出演したときにそう話したような覚えがある。

その後、アラスカ遠征から帰国し、地元周南市でシーカヤックのツアーガイド業を始めた。もちろんお客さんを案内するメインフィールドは上関・祝島海域だ。祝島の多くの人とも友人になった。そして上関の海は故郷の海となった。若い頃、あまり好きでなかった地

元に今は誇りを持てるようになった。これまで出会ってきた人と海に心から「ありがとう」と言いたい。

今年の夏から祝島に程近い佐合島(平生町)に土地を借りた。子供達の冒険学校を設立する為だ。40年間放置されてきた畑を開墾し小学校跡地に小屋を建てる。島に生きることは大変なことだと今思い知らされている。本土とは違い満足できる資材や道具の持ち込みは難しい。水や電気などライフラインの確保。排水の処理。島という共同体としての意識も強く思わなければならない。

島を訪れるのは簡単だ。でもその土地に根付くことは難しい。しかしその難しい中に、現代社会で忘れられようとしている人として重要なことが一杯詰まっているように思う。

島人はなんでも出来る。いい親父であり、いい大工であり、いいエンジニアでもある。いい漁師でもあるし、いい百姓でもある。つまり実力のある人達なのだ。そんな実力のある人間に僕もなりたい。そして子供達にもなってほしい。

今の僕の目標。島人ネイティブになること。そして故郷の海を守ることだ。

祝島。僕の目標とする多くの人がいる場所。これからもずっとカヤックで訪れようと思っている。



祝島を出発する瀬戸内横断カヤック隊
(右から3番目が原さん)

原さんの運営するショップ「ダイドック」のホームページはこちらのアドレスです。

URL <http://www.13.ocn.ne.jp/~daiduk/>

< 特別寄稿 > 祝島中・野球部再創設史 『君の瞳は100万ボルト』

～ 第5話 現実と理想 ～

元祝島中学校教員・松村文彦

「甲子園に出たい!」、「プロの野球選手になりたい!」これは野球に興味を持った子どもなら誰しものが抱くであろう将来像だ。けれどもこれらの理想がいかに高いものかを味わう現実が来るのもまた事実である。とりわけ同年代の他選手のプレーを目の当たりにする機会が少ない環境に置かれている子どもたちにとって、これらの壁は前人未到の秘境の山々のように高く感じてしまう。これは祝島中野球部員にとっても例外ではなかった。

意気揚々にしてこなしていく練習メニューも、それは自分一人のために用意されたもの。課題を克服した達成感も自己に勝った満足感にしか過ぎない。勝負の世界に必要な、他者に勝った達成感を体感する場面が少ないのである。週末になって上関中野球部と合流して行われる練習や練習試合を積み重ねることによって集団の中に置かれた自己の実力を実感する現実に立ち向かい、克服していかなければならないのである。

その上、いくら合同チームで満足のいく結果を残しても、その合同チームが無様な試合内容で敗北を喫すると、必然と今まで合同チームで誇示してきた自分の実力が否定されていくことになる。勝負の世界とはそれほど厳しいもの。彼が今まで過ごした学校生活と違って結果が全てなのである。

2004年のシーズン公式戦は全部で6大会あった。春に行われる春季体育大会、6月から8月にかけて行われる選手権大会、8月に行われる聖光大会、7月か



部員と監督、1対1の練習風景



練習で汗を流した祝中グラウンド

ら10月にかけて行われる秋季体育大会、そして11月に行われる新人戦と柳井近郊大会。全て勝てば最大60試合、全て負ければ最小6試合のゲーム数をこなすことになる。上関中・祝島中合同野球部の成績はというと7戦で1勝6敗。そう、最後の試合で一回戦に勝ったものの、後は全て一回戦負けを記録したのである。野球をしていくうちでこれほど屈辱的なものはない。いくら自分の力を発揮しても、それがチームの勝利に結びつかなければプレーの価値が生まれないことを身をもって体験したのである。この段階になっても「甲子園に出たい!」、「プロの野球選手になりたい!」という願望を持ち続ける野球少年はどれほどいるであろうか。

祝島中の野球部員はこれらの多数に甘んじることなく、今まで以上に練習に本腰を入れ始めた。自分のふがいなさに正面から立ち向かうことと同時に、自らが一年次に発した「高校で野球をしたい。」という言葉に責任を持つべく動き出した。このままのレベルではとてもではないが、高校野球で太刀打ちできないことを感じたのである。今まではただ受けるだけだったノックが意味のあるものになり、走るだけだったダッシュが自分の限界との挑戦になったのである。

そのとき、彼の2004年度のシーズンオフがどのようなになったのかを誰も知る由もなかった・・・。

< 第5話 完 >

Part1. Dennis's first visit to Iwaishima (13)

The 4th Marathon Race will be held on August 7th.
This event is becoming bigger in Iwaishima.

(4回目のマラソン大会が8月7日に行われるんじゃあ。
このイベントはだんだん大きゅうなりょうのんたあ。)

Every year, about 130 people participate in this race.
But the course is hard ...

(毎年、130人ぐらいの人がこの大会に参加せるんで。
ほいじゃがコースはきついがのう・・・)

This year my son Yuichiro will be participate
the race.

(今年は息子の雄一郎が大会に出るんじゃあ。)

He is the best runner, isn't he ?
That'll be fun!!

(彼は一番のランナーでしょうネ。楽しそう！)



Hashibe-san
(橋部さん)



Dennis
(デニス)



Toju-saa
(藤樹さあ)

活動紹介

来年のカレンダーのテーマ&素材を募集!

祝島ネット21では、毎年年末にオリジナルの「祝島カレンダー」を制作していますが、2006年のカレンダーのテーマに関するアイデアや素材を皆さんから募集したいと思います。

参考までに、これまでに制作したカレンダーのテーマは、以下のようになっています。

2002年

「祝島・夏のスケッチ」

2003年

「四季を彩る祝島の草花」

2004年

「祝島の思い出」

2005年

「祝島の神舞」

アイデア等は9月末頃までに事務局までご連絡を!

お知らせ & 募集

お盆に「祝島歴史写真展」を開催します。

前号で、「3月にマーティンさんと共同で祝島の昔の写真をデジタル化した」という話題をお届けしましたが、せっかくなささんの写真を集めたので、これを有効に活用しようということで、お盆に公民館を借りて展示会を開催することにしました。

お盆にはたくさんの方が帰省されると思いますので、歴史写真展を通して、島の歴史についての理解を深め、あるいは島への好奇心を呼び起こし、そしてみんなで昔を懐かしむ良い機会になればと考えております。帰省された折には、ご近所の皆さんを誘って、ぜひご来場下さい。

祝島歴史写真展

[開催期間] 2005年8月13日～15日の3日間

[場所] 祝島公民館2階にて

入場は無料です。



写真展準備のボランティア募集!

写真展の準備作業を手伝っていただける方はよろしくお願ひします。

- ・写真パネル作り(8月に入ってから随時)
 - ・会場準備作業(8月12日午後予定)
 - ・会場片付け作業(8月15日夕方か16日午前中予定)
- 連絡は國弘か橋部まで。

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。今年も暑い夏がやって来ました。祝島も梅雨が明けてからはホントに暑いです。皆さん、くれぐれも体調を崩さないよう注意してください。そういう私は梅雨明け宣言と共に体調を少し崩しましたが、徐々に回復しつつあります。マラソン大会までにはベストの状態に(とまでは行かなくても普通の状態には)持って行きたいと思います。人間やはり健康が一番です!

さて、今週末からは、山口県離島青年会議・不老長寿マラソン・歴史写真展と、お盆までは毎週のように祝島でのイベントが目白押しです。その準備でヒーヒー言いながら、この会報の編集でもヒーヒー言いながら、そんな中でもなんとか発行までこぎつけることができました。原稿を書いてくださった皆さんも、忙しい中をヒーヒー言いながら書いた人も多かったのではないかと思います。本当にご苦労様でした。

今回「祝島大好き人間」のコーナーに登場していただいた原さんについて少し補足させていただくと、彼はじつに好青年なのです。今回の原稿にも感動しましたが、実際の原さんの勇氣と実行力はすごいですよ。彼のような青年が祝島を好きになってくれたことを私は本当にうれしく思っています。

次回の会報は10月発行の予定です。お楽しみに。

(編集長: 國弘秀人)

事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。ご意見・ご感想・身近な情報など、お気軽に投稿してください。祝島ネット21では随時会員を募集しています。

《発行》 祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



練り堀の陰で暑さをしのぐ島ネコ